

	九州大学 保健系分野（歯学）
学部・研究科名	歯学部歯学科（第1年次：53名） 大学院歯学府歯学専攻（D：43名）
沿革・設置目的	九州帝国大学医学部歯科学講座を経て、歯学に関する教育・研究を行うことを目的とし、昭和42年、九州大学歯学部が設置された。 昭和24年（1949年） 新制九州大学設置 昭和42年（1967年） 九州大学歯学部設置 昭和49年（1974年） 九州大学大学院歯学研究科設置（平成12年（2000年）歯学府及び歯学研究院に改組） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行
強みや特色などの役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医学・歯学・薬学・保健学が協働し、それぞれの専門性に立脚した多職種間連携教育により次世代を担うグローバル人材を育成し、産学官連携開放型の国際ライフイノベーション拠点として、先進的な基礎研究に裏打ちされた先進医療の研究開発と医療を推進する。 ○ 九州大学の理念等に基づき、医学系・保健系の部局が同一キャンパス内に位置することを特徴とする馬出キャンパスにおいて、部局間連携・分野横断型の教育・研究体制を活かし、我が国の歯学・歯科医療の各分野において、リサーチマインドを持って生涯自律的に学習、成長する指導的な役割を果たす人材を積極的に育成し、ひいては、アジアを始め、広く世界でリーダーとして活躍できる歯科医師・歯学研究者の養成を積極的に推進する。 ○ 口腔組織の再生・再建医療（自家口腔幹細胞を用いた歯・顎骨の新規再生医療法・細胞治療法）、口腔健康科学（口腔試料の解析結果と口腔疾患や全身疾患との関連の解析、未来型予防医療の創成）を始めとする各領域における研究の実績を活かして、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発・実用化や歯学を基盤としたライフイノベーションの創出、健康寿命ならびにQOLの向上を目指すとともに、次代を担うグローバル人材を育成する。 ○ 社会の超高齢化や新たな歯科医療ニーズへの速やかな対応、高度・先進・先端的な歯科医療の展開、院内外の医科歯科連携（歯周病とメタボ

リックシンドロームとの関連等)の強化等の取組を通じて、アジア・環太平洋地域における歯科医療の発展を牽引する。

- 九州大学国際戦略構想に基づき、アジア諸国への手術支援や遠隔医療支援による国際的医療貢献、発展途上国の研修生受入れによるASEAN地域の総合人材育成への貢献を推進する。